

景気見通し調査 調査結果

令和4年9月期

福井商工会議所 中小企業総合支援センター

【調査の概要】

当調査は、福井商工会議所管内の小規模事業所を中心とした短期的な景気動向を把握するため、毎年3月・6月・9月・12月の年4回実施している。

調査時期：令和4年8月29日(月)～9月6日(火)

調査方法：FAXによる送付・回収及びGoogleフォームによる回答

調査対象：福井商工会議所の会員 小規模事業所を中心に2,239件を抽出
(製造業・建設業・その他…従業員20人以下の事業所
卸売業・小売業・サービス業…従業員5人以下の事業所)

回答数：452件(回答率20.2%)

従業員数	製造業	建設業	小売業	卸売業	サービス業	合計
5名以内	43	57	51	36	91	278(61.6%)
6～10名以内	22	17	11	11	16	77(17.2%)
11名以上	35	21	9	14	18	97(21.2%)
小計	100(22.1%)	95(21.0%)	71(15.7%)	61(13.5%)	125(27.7%)	452(100.0%)

D I 値とは…ディフュージョン・インデックス(Diffusion Index)の略で、景気動向を示す指標。「良い」「上昇した」とする企業割合から、「悪い」「下落した」とする企業割合を差し引いた値。「現在」D I 値は3ヵ月前を基準とした現在の状況、「先行」D I 値は今後3ヵ月後の状況を予測したもの。

【調査結果の概要】

新型コロナ感染拡大第7波の中、景況感はわずかに改善も、先行き不安は続く。

①業界の景況

新型コロナ感染拡大期の中、わずかながらも2期連続の改善。先行きは悪化の見通し。

②自社の景況

2期連続で改善、小売業は夏休みシーズンの個人消費回復などにより、大幅改善。

③売上高(受注高)

コロナ禍前の水準に近づく。小売業、建設業で改善幅大きく。

④販売価格

過去最高に。全業種で上昇。

⑤仕入価格

6期連続で悪化、先行きも高止まりの見通し。

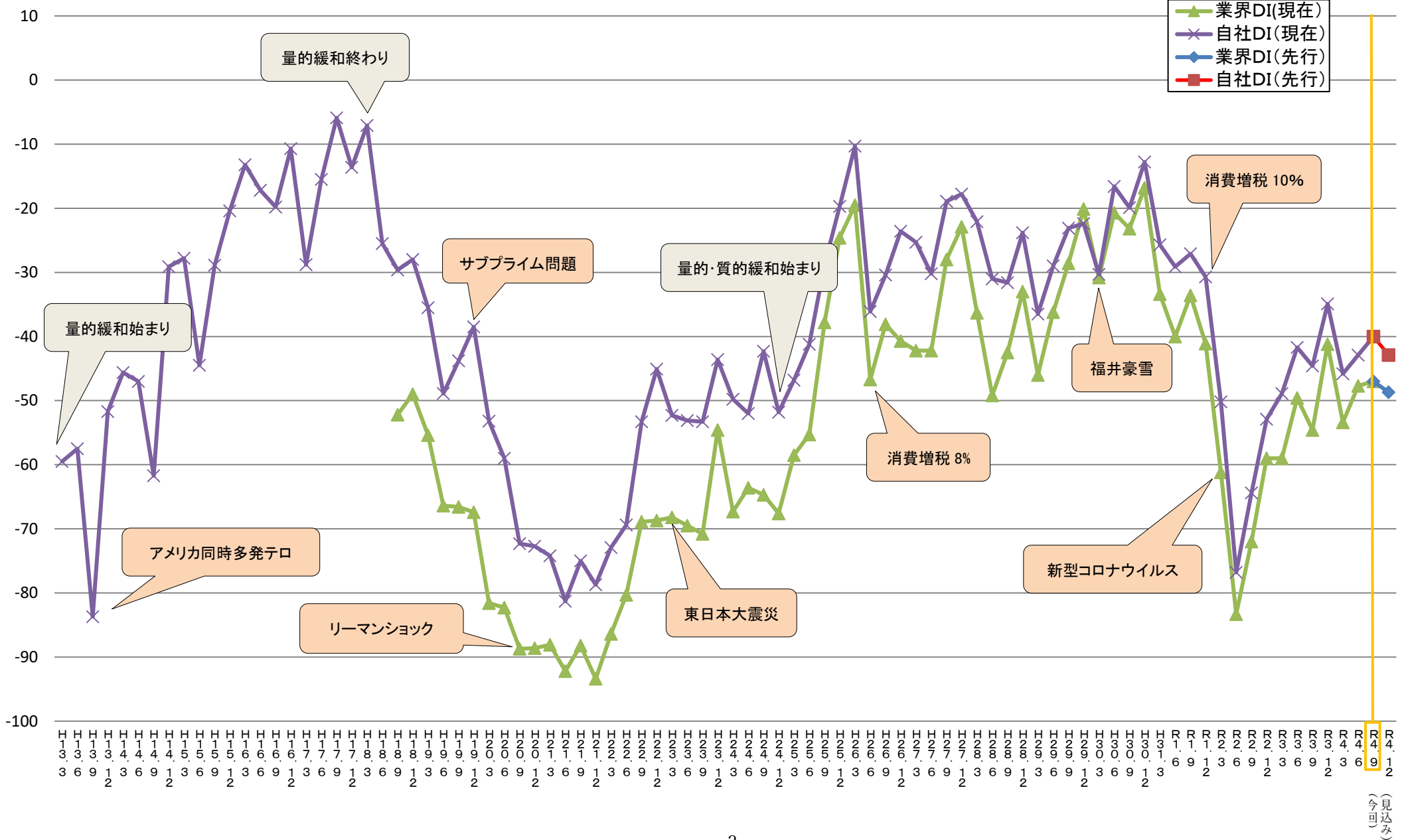
⑥採算(収支)

全業種で改善、小売業、サービス業で改善幅大きく。

【特別調査「消費税インボイス制度の対応状況について」の概要】

- 「適格請求者発行事業者登録」については、「申請済み」が31.1%、「申請中」が6.6%、「令和5年3月31日までに申請予定」が29.0%と1年前と比較するとインボイス制度への理解や対応は進んでいた。
- インボイス制度に対する準備状況については、システムの入替や改修、請求書の様式変更などの「対応すべきことは理解しているがまだ取り掛かっていない」が44.1%で最も多く、「対応済み」は6.3%に留まった。
- 制度開始後、インボイスを発行できない免税事業者から仕入などを行う課税事業者は、自社が支払った仕入税額を控除できず納税額が大きくなるため、免税事業者との取引を見直す動きも見られる。今後の免税事業者との取引については、「課税事業者になるよう提案」が8.7%、「課税事業者にならなければ取引を行わない」が5.0%、「取引価格の検討」が6.4%と、免税事業者のままでは現在の取引を続けることが困難と判断している事業所が2割を超えた。また、「検討中」は38.6%で、検討の結果次第ではさらに多くの免税事業者が悪影響を受ける可能性が懸念された。

福井商工会議所「景気見通し調査」 業界／自社景況DI推移

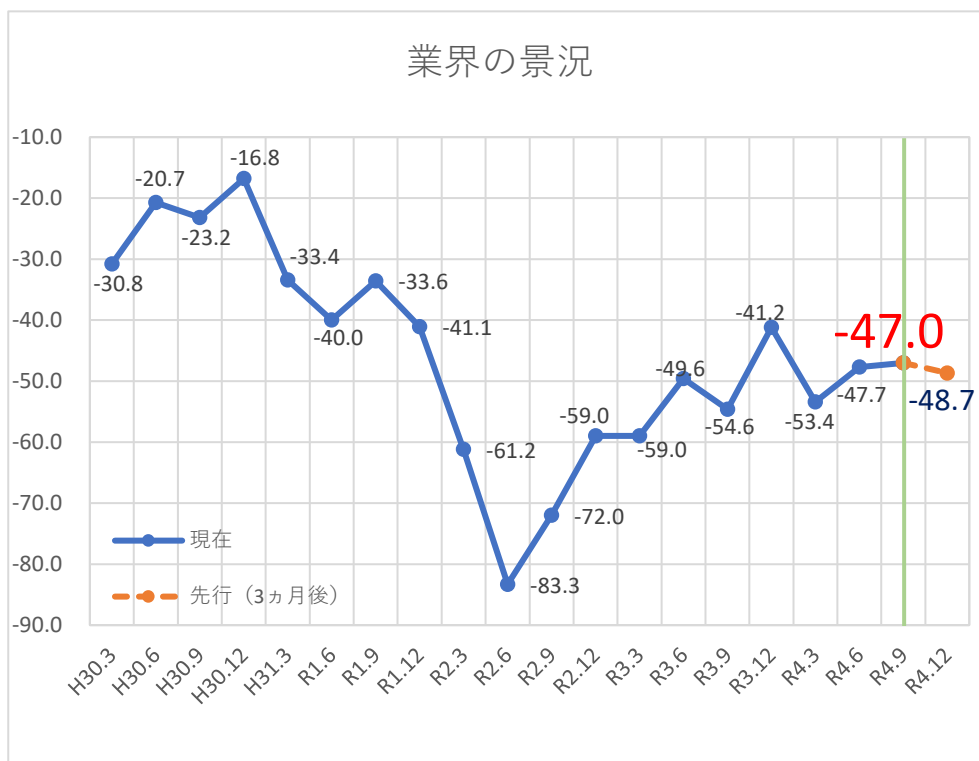


①—業界の景況—

【新型コロナ感染拡大第7波の中、わずかながら2期連続の改善】

業界全体の現在DI値は▲47.0（+0.7ポイント）とわずかながら2期連続で改善した。新型コロナウイルス発生以降、感染拡大状況が景況感の良し悪しを左右していたが、今回は感染拡大期の中での改善となり、感染拡大による景況感への影響は徐々に薄らいでいる様子が窺えた。一方、先行DI値は▲48.7（-1.9ポイント）と再び悪化の見通しで、今後は原油・原材料価格の高止まりや円安の進行、ウクライナ情勢による影響の長期化などもあって、先行きは予断を許さない状況が続くと見られた。

業種別にみると、現在DIは小売業で▲50.7（+5.8ポイント）、卸売業で▲68.9（+5.2ポイント）、建設業で▲25.3（+4.6ポイント）と改善した一方で、サービス業は現在DI値が▲47.6（-4.3ポイント）と悪化した。特にサービス業のうち飲食業は、▲87.5（-13.6ポイント）と大幅な悪化となり、事業所からは、依然として外出自粛ムードが続いており、「宴会や法事の利用が減少している」、「宴会などの規模が縮小している」といった声も聞かれた。



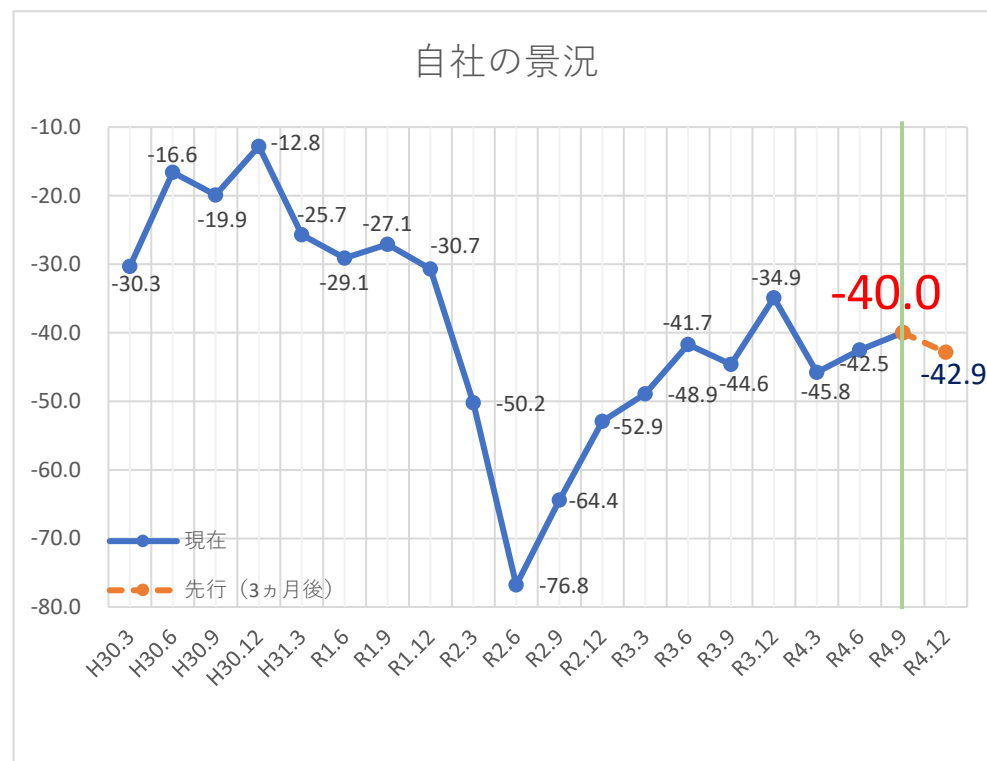
① 業界の景況	2022年7～9月（今期）		2022年10～12月（見通し）	
	現在DI値	変化幅	先行DI値	変化幅 (先行DI－現在DI)
全業種	-47.0	0.7	-48.7	-1.7
製造業	-51.0	-0.1	-51.0	0.0
建設業	-25.3	4.6	-33.0	-7.7
小売業	-50.7	5.8	-52.1	-1.4
卸売業	-68.9	5.2	-60.7	8.2
サービス業	-47.6	-4.3	-50.8	-3.2

②—自社の景況—

【2期連続して改善、小売業で改善幅大きく】

自社の景況は、現在DI値が▲40.0(+2.5ポイント)と業界の景況感と同様に2期連続で改善した。一方、先行DI値は▲42.9(-2.9ポイント)と、悪化の見通しとなった。

業種別にみると、小売業は現在DI値が▲37.1(+12.9ポイント)で大幅に改善した。また、サービス業は現在DI値が▲40.0(+6.3ポイント)と2期連続で改善し、3年ぶりに行動制限のない夏休みシーズンとなり、個人消費の回復なども影響していると推察された。しかし、サービス業は先行DI値が▲46.0(-6.0ポイント)と悪化の見通しで、先行きに慎重な見方が目立った。



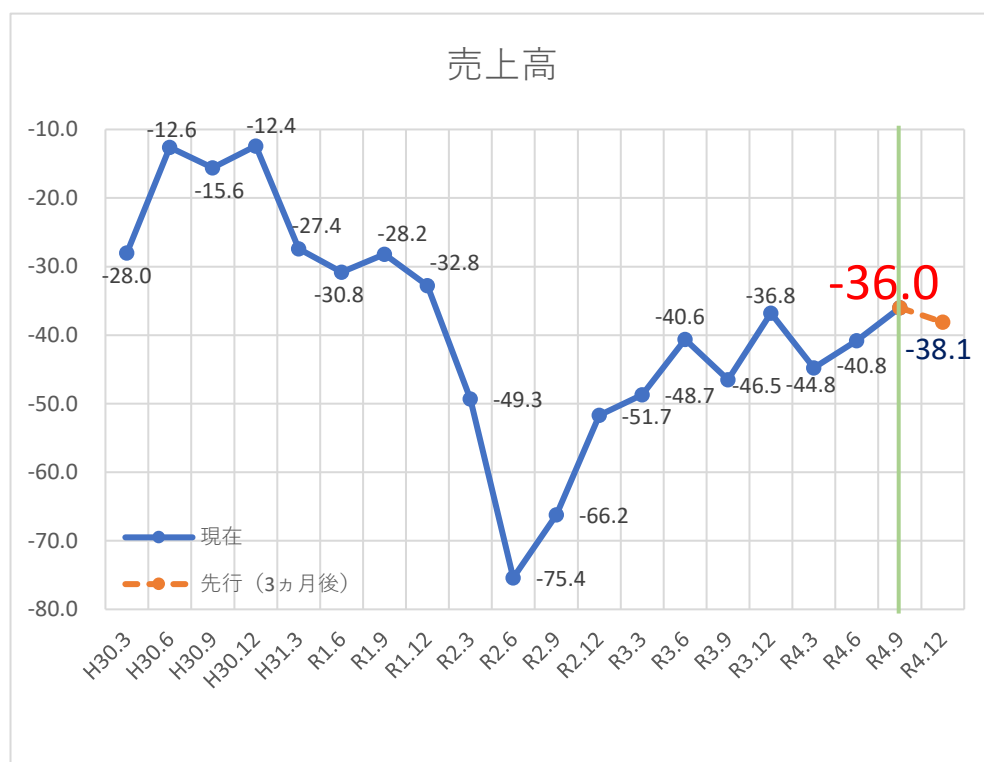
② 自社の景況	2022 年 7～9 月（今期）		2022 年 10～12 月（見通し）	
	現在DI値	変化幅	先行DI値	変化幅 (先行DI－現在DI)
全業種	-40.0	2.5	-42.9	-2.9
製造業	-40.0	0.7	-44.0	-4.0
建設業	-27.7	-1.8	-25.8	1.9
小売業	-37.1	12.9	-41.4	-4.3
卸売業	-62.3	-2.0	-62.3	0.0
サービス業	-40.0	6.3	-46.0	-6.0

③一売上高（受注高）

【コロナ禍前の水準に近づくも、先行きは悪化の見通し】

売上高（受注高）の現在DI値は、▲36.0（+4.8ポイント）と2期連続で改善となった。しかしながら、先行DI値は▲38.1（-2.1ポイント）とここでも先行きは悪化の見通しとなった。

業種別にみると、現在DI値は小売業で▲38.6（+10.6ポイント）、サービス業で▲38.7（+4.6ポイント）と、夏休みの人流の増加などの影響により改善し、自社の景況感と同様の結果となった。また、建設業は▲22.1（+7.5ポイント）と、冷房器具の設置など各種工事が活発だったことなどもあって、3期ぶりに改善した。一方、先行DI値はサービス業で▲45.9（-7.2ポイント）、特にサービス業のうち飲食業以外の事業所は▲29.0（-10.0ポイント）と大幅に悪化の見通しとなった。事業所からは、夏休みシーズンで売上は増加したものの、地域催事やレクリエーションが以前より減るなど依然として新型コロナウイルスの影響が残り、先行きは厳しいといった声も聞かれた。



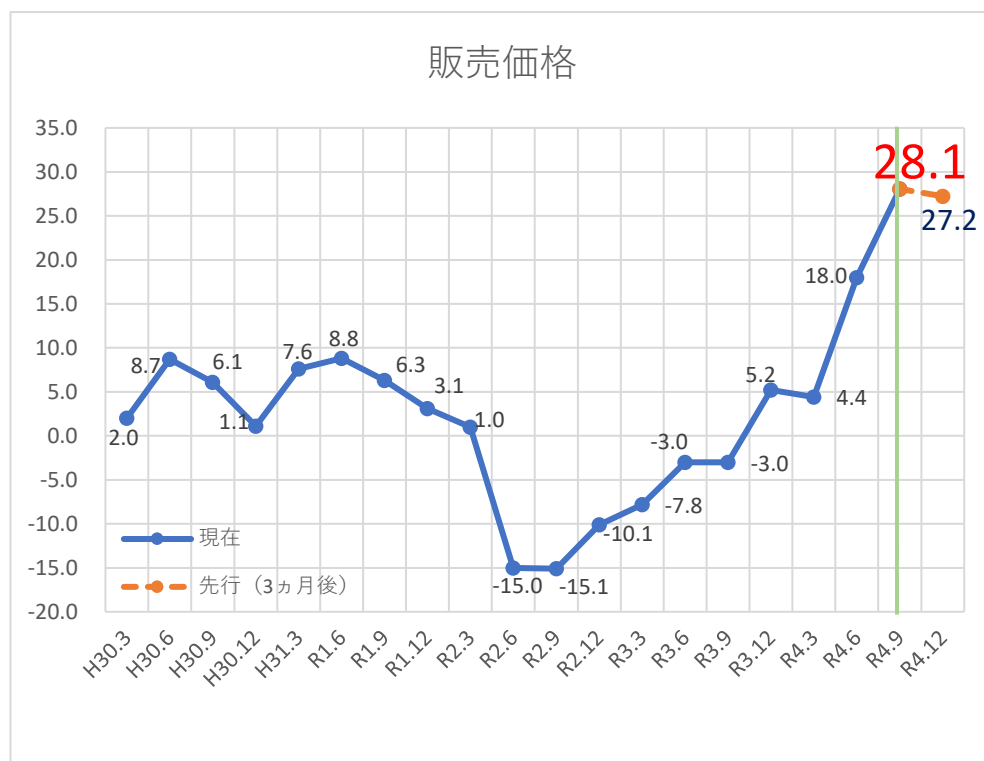
③売上高	2022 年 7～9 月（今期）		2022 年 10～12 月（見通し）	
	現在DI値	変化幅	先行DI値	変化幅 (先行DI - 現在DI)
全業種	-36.0	4.8	-38.1	-2.1
製造業	-36.0	4.2	-37.4	-1.4
建設業	-22.1	7.5	-18.9	3.2
小売業	-38.6	10.6	-41.4	-2.8
卸売業	-49.2	-0.9	-50.0	-0.8
サービス業	-38.7	4.6	-45.9	-7.2

④—販売価格—

【全ての業種で上昇、過去最高に】

販売価格の現在 DI 値は、28.1 (+10.1 ポイント) と前回調査に引き続き 10 ポイント以上の大幅な上昇となり、前回更新した値を上回って過去最高となった。しかし、先行 DI 値は 27.2 (-0.9 ポイント) と 3 期ぶりに下降した。

業種別にみると、卸売業は現在 DI 値が 58.3 (+27.3 ポイント) と大幅に上昇した。尚、卸売業は R4.6 月に当所で実施した特別調査「価格転嫁における現状について」において、価格転嫁の満足度が他業種と比べると特に低く、その後はより価格転嫁が進んだ様子が推察される結果となった。また、先行 DI 値は、卸売業で 49.2 (-9.1 ポイント)、製造業で 26.3 (-8.7 ポイント) と現在 DI 値の水準が高い 2 業種でそれぞれ下降の見通しとなった。



④販売価格	2022 年 7～9 月（今期）		2022 年 10～12 月（見通し）	
	現在 DI 値	変化幅	先行 DI 値	変化幅 (先行 DI - 現在 DI)
全業種	28.1	10.1	27.2	-0.9
製造業	35.0	9.8	26.3	-8.7
建設業	22.2	9.0	25.8	3.6
小売業	31.0	3.6	35.7	4.7
卸売業	58.3	27.3	49.2	-9.1
サービス業	9.9	5.6	12.7	2.8

⑤—仕入価格—

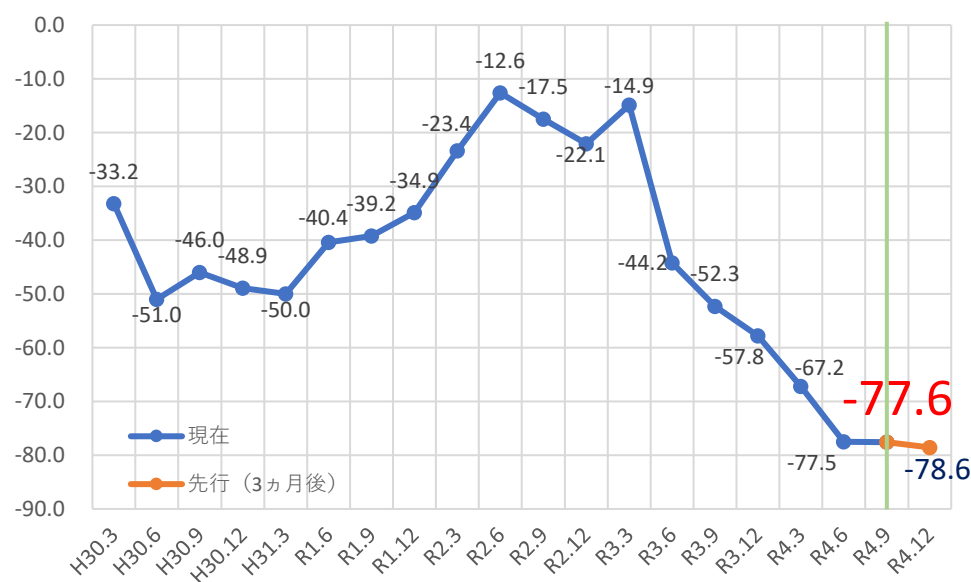
【6 期連続で悪化、今後も高止まりの見通し】

仕入価格の現在 DI 値は、▲77.6(-0.1 ポイント)とわずかながら悪化し、6 期連続の悪化となった。また、先行 DI 値も▲78.6 (-1.0 ポイント) となり、仕入価格は高止まりする見通しとなった。

業種別にみると、小売業は現在 DI 値が▲73.2(-10.3 ポイント)と大幅に悪化した。特に、飲食料品関係の事業所で価格上昇との回答が目立ち、原材料費や、円安による輸入コストの上昇などを要因とした飲食料品の「値上げラッシュ」も影響していると考えられた。尚、(株)帝国データバンクの「価格改定動向調査(食品主要 105 社)」においても、飲食料品の値上げ品目、企業数は 6～8 月にかけて急増し、本結果との関連性が見受けられた。また、製造業の現在 DI 値は▲92.0(-5.0 ポイント)と 6 期連続で悪化した。尚、製造業は後述する経営上の課題(外部要因)においても「原材料(燃料費)の高騰」を挙げる回答が最多で他業種と比べて多く、原材料高や生産コストの上昇に悩まされている様子が窺えた。

※(株)帝国データバンク特別企画「食品主要 105 社価格改定動向調査(R4.9 月)」

仕入価格



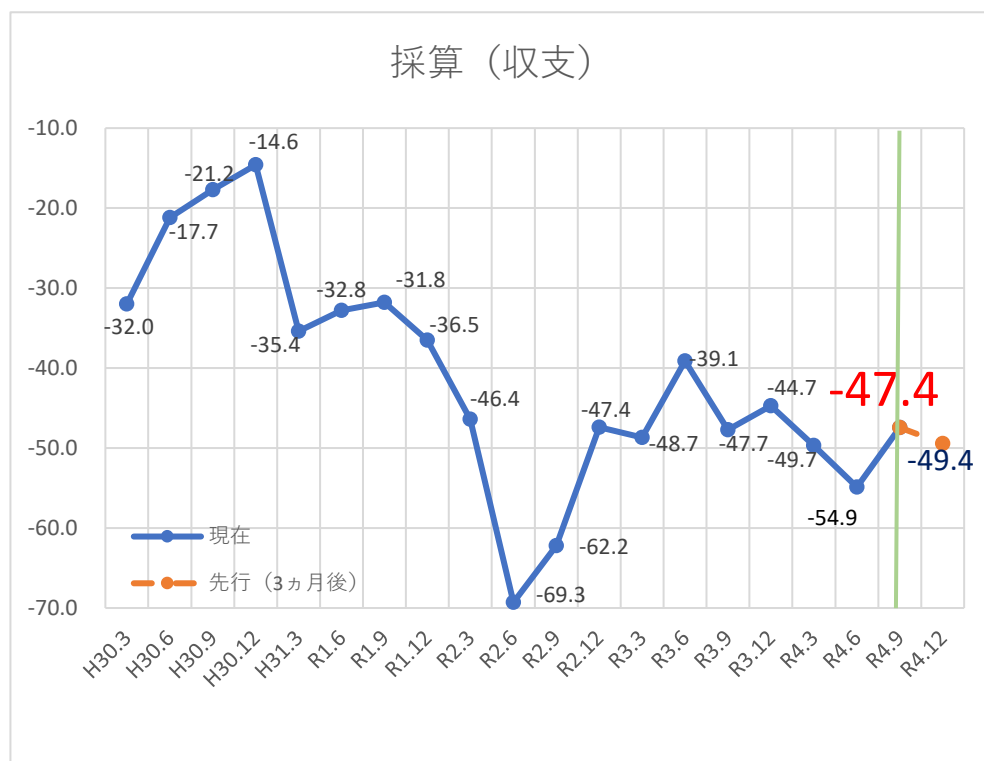
⑤仕入価格	2022 年 7～9 月 (今期)		2022 年 10～12 月 (見通し)	
	現在 D I 値	変化幅	先行 D I 値	変化幅 (先行 D I - 現在 D I)
全業種	-77.6	-0.1	-78.6	-1.0
製造業	-92.0	-5.0	-87.9	4.1
建設業	-83.9	3.1	-86.0	-2.1
小売業	-73.2	-10.3	-77.1	-3.9
卸売業	-88.5	6.3	-86.6	1.9
サービス業	-57.9	0.1	-61.7	-3.8

⑥—採算（収支）—

【全業種で改善、小売業、サービス業で改善幅大きく】

採算（収支）状況を表す現在 DI 値は、▲47.4（+7.5 ポイント）と 3 期ぶりに改善した。一方、先行 DI 値は▲49.4（-2.0 ポイント）と悪化の見通しとなった。

業種別にみると、全ての業種で現在 DI 値は改善し、前述した販売価格と同様の結果となり、価格転嫁などにより収益を確保しようとする様子が窺えた。特に、小売業で▲40.8（+17.3 ポイント）、サービス業で▲40.3（+12.2 ポイント）と新型コロナ対応の行動制限がない夏休みシーズンにおける個人消費の回復などが後押しし、自社の景況感と連動して大幅に改善した。しかし、先行 DI 値は小売業で▲43.7（-2.9 ポイント）、サービス業で▲50.4（-10.1 ポイント）と悪化し、改善は続かない見通しとなった。



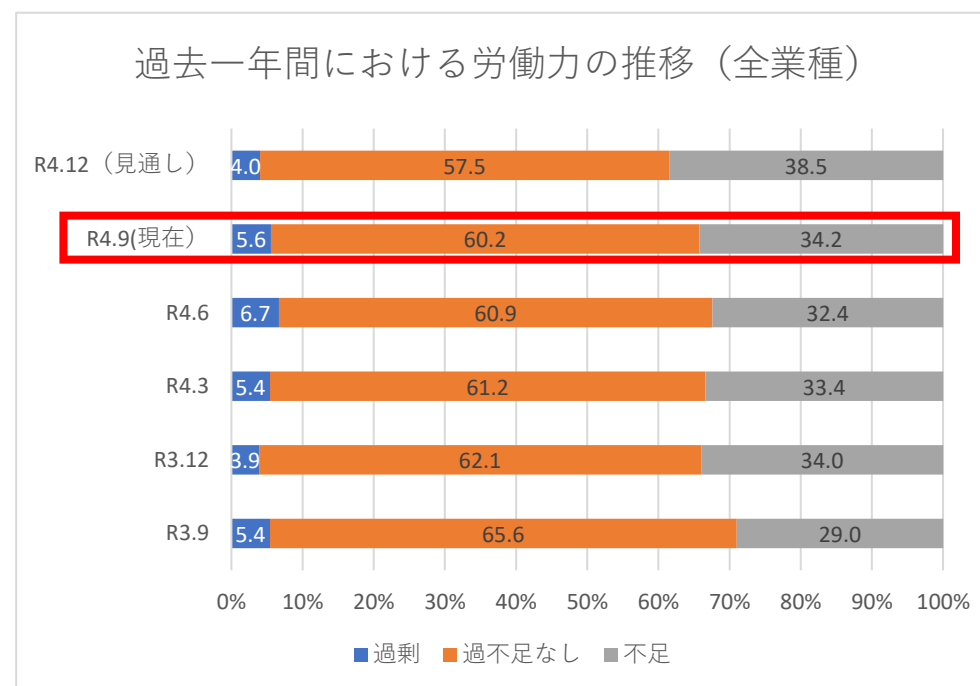
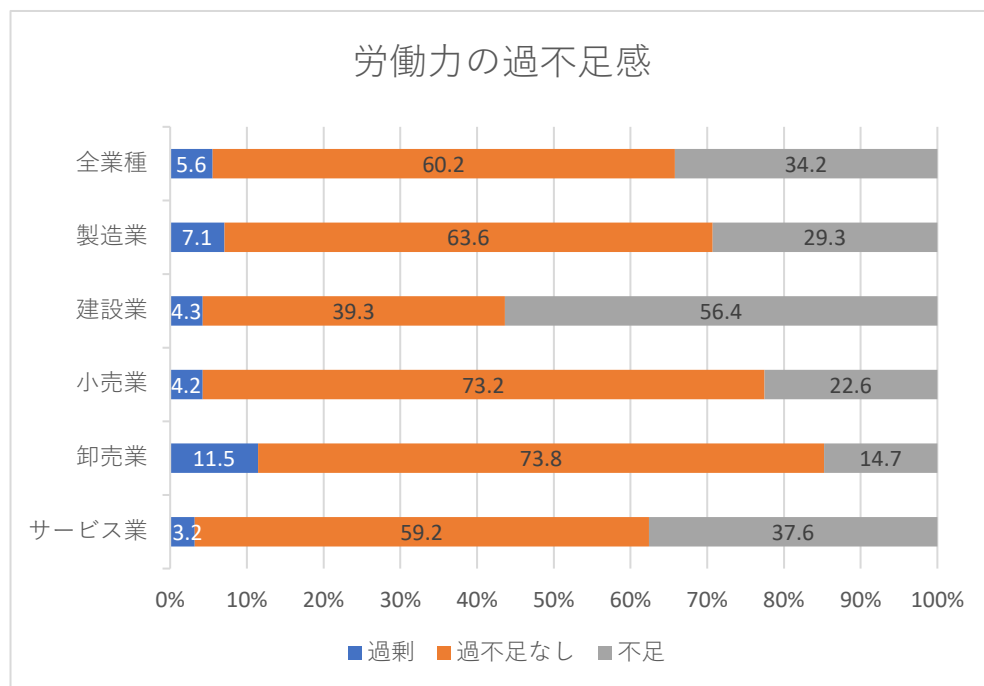
⑥採算	2022 年 7～9 月（今期）		2022 年 10～12 月（見通し）	
	現在 D I 値	変化幅	先行 D I 値	変化幅 (先行 D I - 現在 D I)
全業種	-47.4	7.5	-49.4	-2.0
製造業	-57.0	0.4	-60.6	-3.6
建設業	-45.2	1.0	-37.0	8.2
小売業	-40.8	17.3	-43.7	-2.9
卸売業	-57.4	9.8	-55.0	2.4
サービス業	-40.3	12.2	-50.4	-10.1

⑦—労働力—

【「不足」が2期ぶりに増加、サービス業で不足感強まる】

労働力については、「不足」が34.2%（前回32.4%）と前回調査から1.8ポイント増加し、小幅ではあるが2期ぶりに不足感が強まった。また、3か月後の見通しも、「不足」が38.5%とさらに4.3ポイント増加し、コロナ禍から正常の経済社会活動に戻ろうとする動きに連動することで再び人手不足に陥り、経営に及ぼす影響が懸念された。

業種別にみると、サービス業は「不足」が37.6%（前回25.4%）と12.2ポイントの大幅な増加となった。特に、飲食業を除くサービス業で、37.6%（前回22.9%）と14.7ポイント増加し、自社の景況感の改善傾向を反映した結果となった。また、建設業と製造業も不足感が強まっており、それぞれ「不足」が56.4%（前回54.4%）、29.3%（前回25.0%）となった。



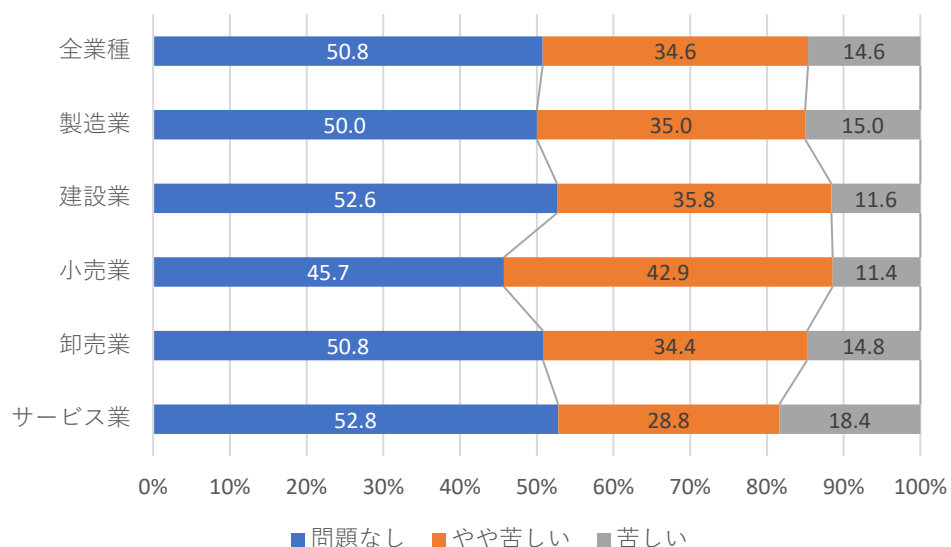
⑧—資金繰り—

【「問題なし」が3期ぶりに半数を超えるも、今後の資金繰りへの不安も多く】

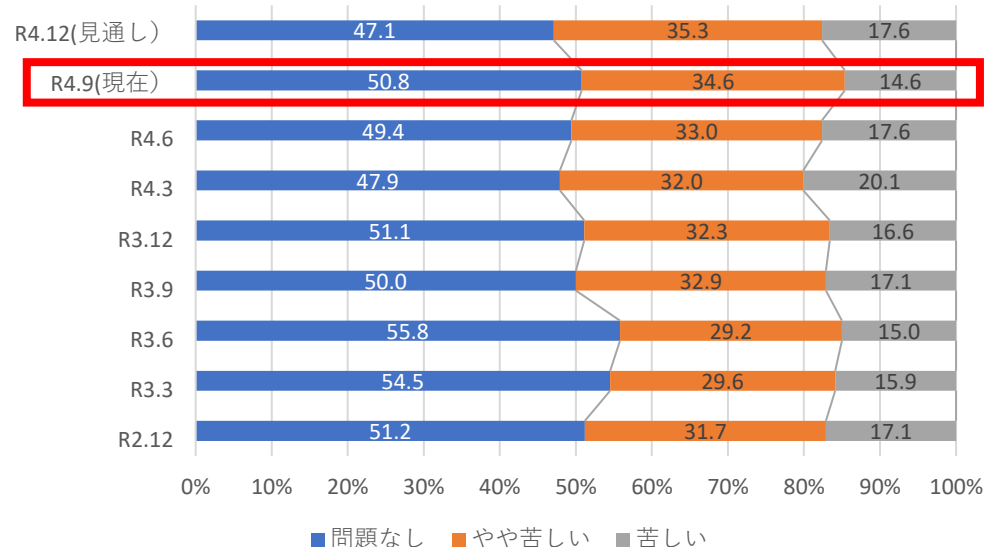
現在の資金繰りの状況は、「問題なし」が3期ぶりに半数を超え、「苦しい」が14.6%と前回調査から2.9ポイント減少した。しかし、3カ月後の見通しは「苦しい」が17.6%(+3.0ポイント)と再び増加し、依然として今後の資金繰りには不安が残る結果となった。

業種別にみると、「苦しい」は全ての業種で減少したものの、「やや苦しい」が小売業以外の全ての業種で増加し、改善傾向にあるが苦しい状況が続いていることが見て取れた。前述したとおり、今後も仕入価格は高止まりする見通しで、収益減少など懸念されることから、引き続き今後の動向を注視する必要がある。尚、小売業は「問題なし」が45.7%(+10.8ポイント)と、自社の景況感、採算と連動して大幅に改善した。

資金繰り（現状）



資金繰りの推移（全業種）



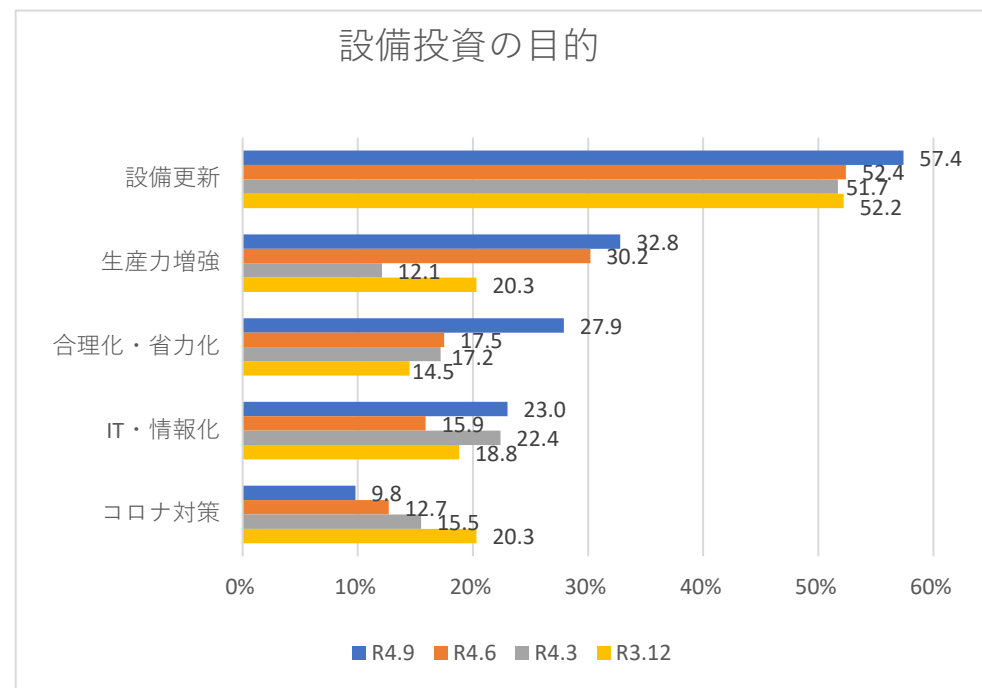
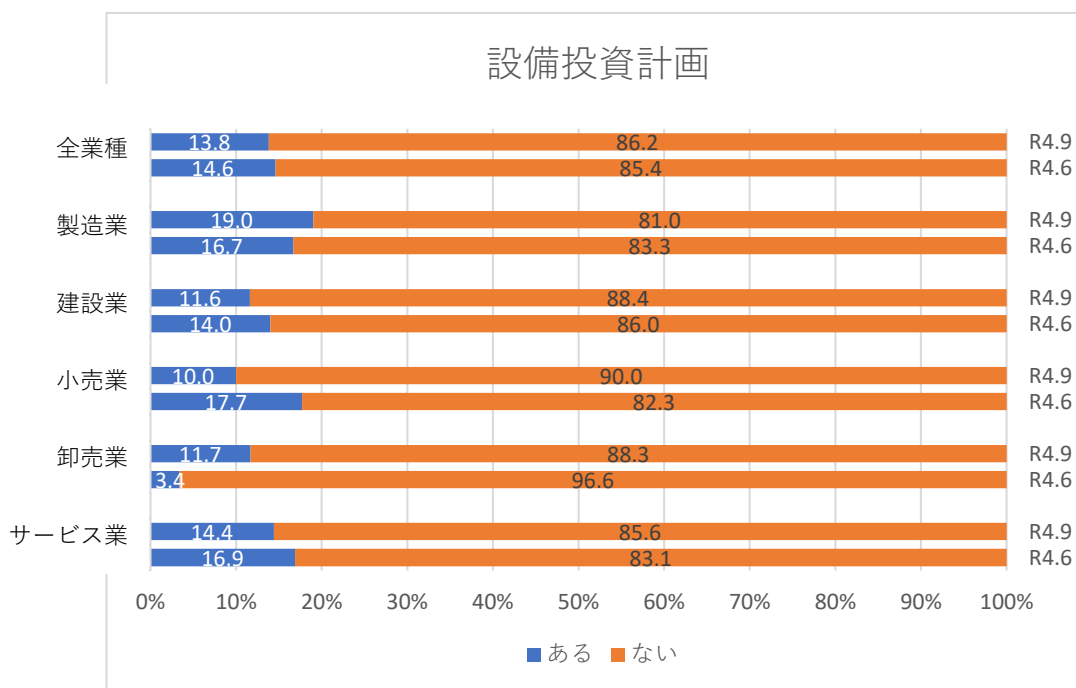
⑨—設備投資—

【「計画あり」は減少 設備投資抑制の傾向続く】

今後3ヵ月以内の設備投資計画は、「投資計画あり」が13.8%と前回調査から0.8ポイント減少し、「投資計画なし」は86.2%と依然として設備投資を抑制する傾向が続く結果となった。

業種別にみると、「投資計画あり」は製造業で19.0%(+2.3ポイント)、卸売業で11.7%(+8.3ポイント)と増えた一方で、「投資計画なし」が小売業で90.0%(+7.7ポイント)、建設業で88.4%(+2.4ポイント)、サービス業で85.6%(+2.5ポイント)と増え、業種間で違いが見られた。

尚、「投資計画あり」と回答した事業所の投資内容では、「設備更新」が57.4%(+5.0ポイント)と最多で、次いで「生産力増強」が32.8%(+2.6ポイント)と多かった。また、3番目に多かった「合理化・省力化」は27.9%(+10.4ポイント)で、卸売業の回答が目立った。他、「IT・情報化」は23.0%(+7.1ポイント)と再び増加し、コロナ禍を機に加速したデジタル化への対応などもポイントを伸ばした要因と考えられた。



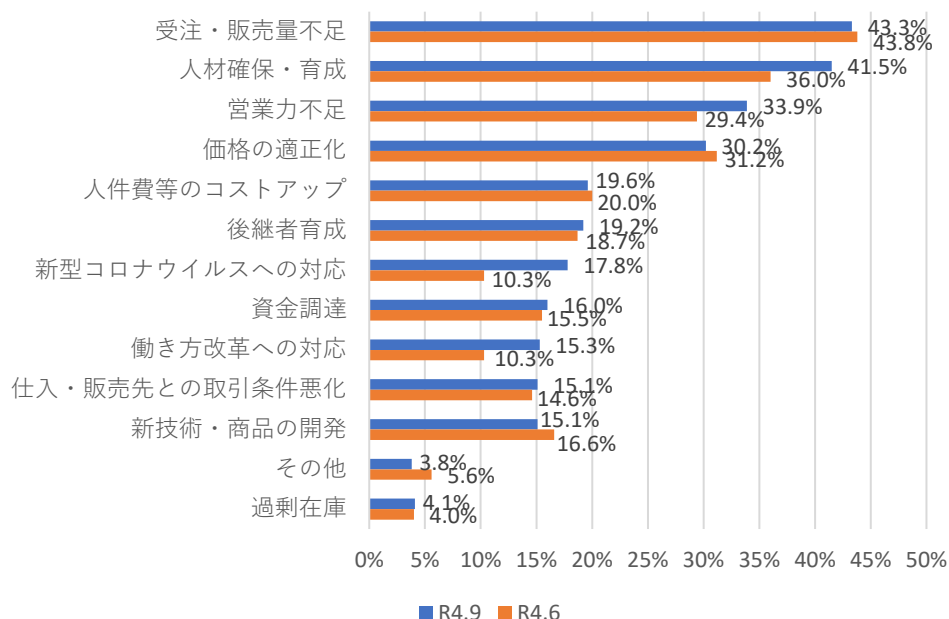
⑩—経営課題（内的要因）—

【「人材確保・育成」が7期ぶりに増加】

内的要因における経営上の課題は、「受注・販売量不足」が43.3%(-0.5ポイント)と最も多かった。次に多かったのは、「人材確保・育成」で41.5%(+5.5ポイント)となった。この「人材確保・育成」の課題は、R2.12月期調査以降減少が続いていたが7期ぶりに増加し、コロナ禍によって経済活動が制約され、人手不足感がいったん落ち着いていたが、徐々に活動制約がなくなる中で、再び課題として挙げる声が多くなってきた。その他、「新型コロナウイルスの対応」は17.8%(+7.5ポイント)と感染拡大第7波に伴って再び増加した。

業種別にみると、卸売業、製造業で「価格の適正化」がそれぞれ35.0%(-4.7ポイント)、31.3%(-9.5ポイント)と減少し、価格転嫁に取り組んでいる様子が窺われた。一方、小売業は32.4%(+11.4ポイント)、建設業は30.4%(+1.8ポイント)と増加し、これらの業種では仕入価格の上昇に対する「価格の適正化」が依然として主要な課題となっていることが推察された。

経営上の課題（内的要因）（複数回答）



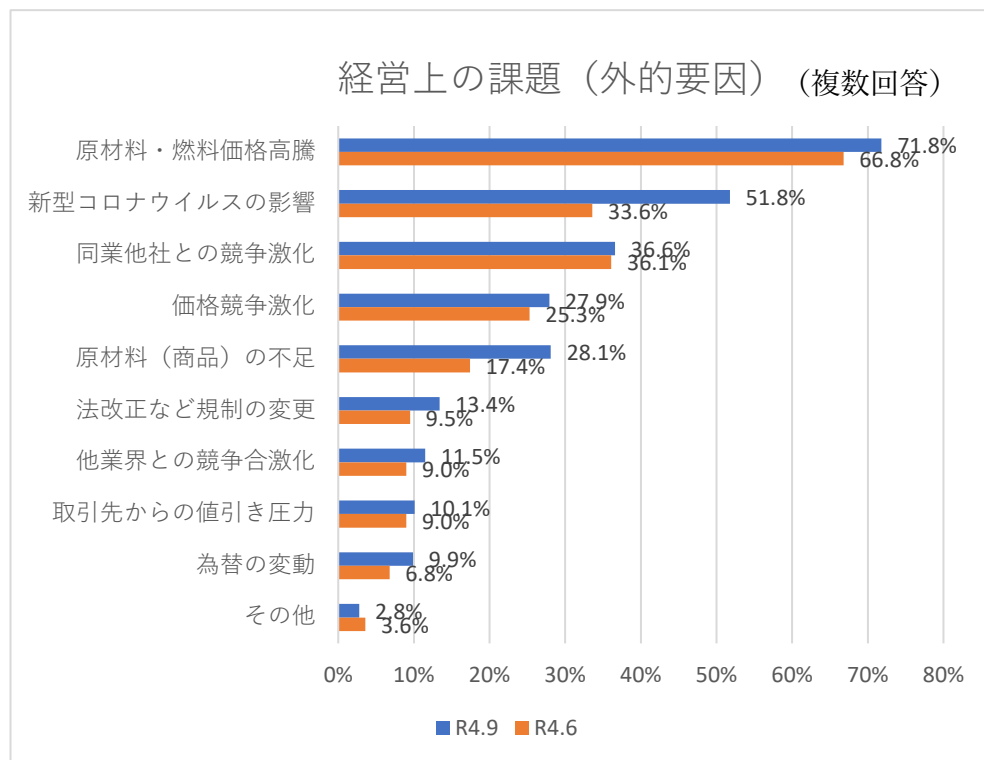
業種別経営課題 （内的要因） 【複数回答】			受注・ 販売量不足	人材確保・ 育成	営業力不足	価格の適正化
全業種	R4.9		43.3%	41.5%	33.9%	30.2%
	R4.6		43.8%	36.0%	29.4%	31.2%
製造業	R4.9		58.6%	37.4%	32.3%	31.3%
	R4.6		50.5%	35.9%	29.1%	40.8%
建設業	R4.9		31.5%	63.0%	29.3%	30.4%
	R4.6		36.2%	58.1%	22.9%	28.6%
小売業	R4.9		42.3%	32.4%	35.2%	32.4%
	R4.6		56.5%	24.2%	25.8%	21.0%
卸売業	R4.9		63.3%	28.3%	45.0%	35.0%
	R4.6		51.7%	17.2%	34.5%	39.7%
サービス業	R4.9		30.6%	40.5%	32.2%	25.6%
	R4.6		34.2%	31.6%	35.0%	26.5%

⑪—経営課題（外的要因）—

【「原材料・燃料価格高騰」が4期連続で最多、影響広がる】

外的要因における経営上の課題は、「原材料・燃料価格の高騰」が71.8%（+5.0ポイント）で、4期連続で最多となった。次に、「新型コロナウイルスの影響」が多く、51.8(+18.2ポイント)と増加した。また、「原材料（商品）の不足」が28.1%(+10.7ポイント)と大幅に増加し、コロナ禍からの経済回復の足かせになることが懸念された。その他、「為替の変動」は繊維、繊維製品、飲食、食料品関係の事業所の回答が多く、小幅ながら2期連続で増加した。

業種別にみると、「原材料・燃料価格高騰」は小売業で59.4%(+12.6ポイント)、サービス業で53.8%(+12.6ポイント)と大幅に増加した。特に、小売業では、食料品、自動車関係、サービス業では飲食や運送の事業所の回答が多かった。



			原材料・燃料価格高騰	新型コロナウイルスの影響	同業他社との競争激化	価格競争激化
業種別経営課題 （外的要因） 【複数回答】	全業種	R4.9	71.7%	51.8%	36.6%	27.9%
		R4.6	66.8%	33.6%	36.1%	25.3%
	製造業	R4.9	87.8%	50.0%	30.6%	27.6%
		R4.6	90.6%	26.4%	21.7%	22.6%
	建設業	R4.9	85.6%	40.0%	42.2%	28.9%
		R4.6	78.1%	22.1%	40.4%	26.9%
	小売業	R4.9	59.4%	59.4%	34.8%	31.9%
		R4.6	46.8%	41.9%	45.2%	30.6%
	卸売業	R4.9	74.1%	39.7%	41.4%	27.6%
		R4.6	73.7%	33.3%	31.6%	22.8%
	サービス業	R4.9	53.8%	63.9%	36.1%	25.2%
		R4.6	41.2%	46.5%	43.0%	24.6%

参考：回答者の声（業種別）

- 業界的に夏の売上は落ち、毎年冬に向けて売上が伸びていく傾向にある。コロナ禍も落ち着きつつあり、観光需要も少しずつ回復していくのではないかとみている。（食品卸売業） ➡
- 蟹加工品を取り扱っているため、蟹のシーズンが近くなると売上も伸びる。現在もシーズンに向けて注文が増えつつあると実感している。（食品加工業） ➡
- 自社商品は海外へ輸出するものもあり、円安は追い風になっている。（繊維卸売業） ➡
- 民間工場の機械設置工事があり、売上が増加している。（電気工事業） ➡
- 夏場は一般住宅への冷房設置工事で例年売上は多くなり、今シーズンも好調であった。（電気工事業） ➡
- 繊維工場の機械修理を行っており、部品不足などの影響は多少あるものの、景気の影響は比較的受けにくく今期の売上は微増となった。（機械修理業） ➡
- 資材の値上がり、納品遅れが増えていると聞いている。資材、燃料等の値上がりを業者の中でやりくりできなければ顧客に価格転嫁するしかないが、それをすると契約の見送りが出てしまう可能性もあり、業界としては厳しい見通し。（建築サービス業） ➡
- 資材の値上げもそうだが、近頃は見積もりを出しても契約に結び付かないことが多く、顧客の財布の紐が固いように感じている。（建設業） ➡
- 福井市中心部のホテルは冬に売上が下がる傾向である。さらにコロナ禍の見通しが立たず、合宿や旅行の機会が減少し、夏休みも終わるなど売上が増える見込みはあまりない。（宿泊業） ➡
- やはりコロナ禍の影響はまだ残っていると感じる。特に高齢者層が同居していたり、同じグループの中にいたりすると、外出を自粛していると感じる。核家族世帯は比較的戻ってきているようにも感じる。（飲食業） ➡

- 宴会申込がほぼなくなった。法事での予約もこれまで 20 人規模だったのが 10 人規模になったりするなど著しく小規模化が進んでおり、売上に影響を及ぼしている。さらに、物価高騰が追い打ちとなり、今残った顧客にもこれから値上げをしていかなければならないことを考えると苦しい。
(飲食業) ➡
- コロナ禍を経て、外食をする文化が無くなってしまったように感じる。特に年齢が高い層ほど外食が減っているとみており、若い客層からの口コミ、SNS で挽回したいと思っている。(飲食業) ➡
- 外出の機会が少なくなると結果的に自己のリスクが減少し、保険業としては売上減少となる。夏休み終了で外出の機会が減ることに加え、秋はコロナ前まであった地域のお祭りやレクリエーションも以前よりは減っているため見通しは厳しいとみている。テレワークの普及で通勤事故のリスクが減少しつつあるのも長期的にみて減少の要素と感じている。(損害保険業) ➡
- 8 月から 9 月にかけて売上は伸びているが、全国的な半導体不足の影響が続いており、新車販売台数が落ちている。長期的にみれば世に出る車の量が減るということで、今後の見通しは暗いとみている。(自動車整備業) ➡